

「知財フロンティアの開拓に向けて」 (分野別知的財産戦略) 〈概要〉

2008年1月25日

内閣官房知的財産戦略推進事務局

経緯

「知的財産推進計画2007」(2007年5月)

科学技術基本計画上の重点推進4分野を対象に競争力強化の観点から分野別知的財産戦略を策定
(ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料)

2007年8月～11月21日

8月、知的財産戦略本部の下に、「知的財産による競争力強化専門調査会」が発足し、同専門調査会の下に、分野ごとのプロジェクトチームを設置。各プロジェクトチームでの専門的検討を踏まえ、専門調査会において調査検討

知的財産戦略本部会合(2007年12月)

分野別知的財産戦略を報告

各分野の知財上の特性と現状

知財上の特性

現状

ライフサイエンス

- 一製品少数特許
- 基本特許の役割が大

- 欧米が特許出願でリード
- 遺伝子組換え生物等の技術革新が進展

情報通信

- 一製品多数特許
- 相互接続性の確保

- 権利関係が錯綜
- 権利濫用事例の顕在化

環境

- ニーズ指向
- 政策の及ぼす影響大

- 我が国技術の国際展開が不十分

ナノ・材料

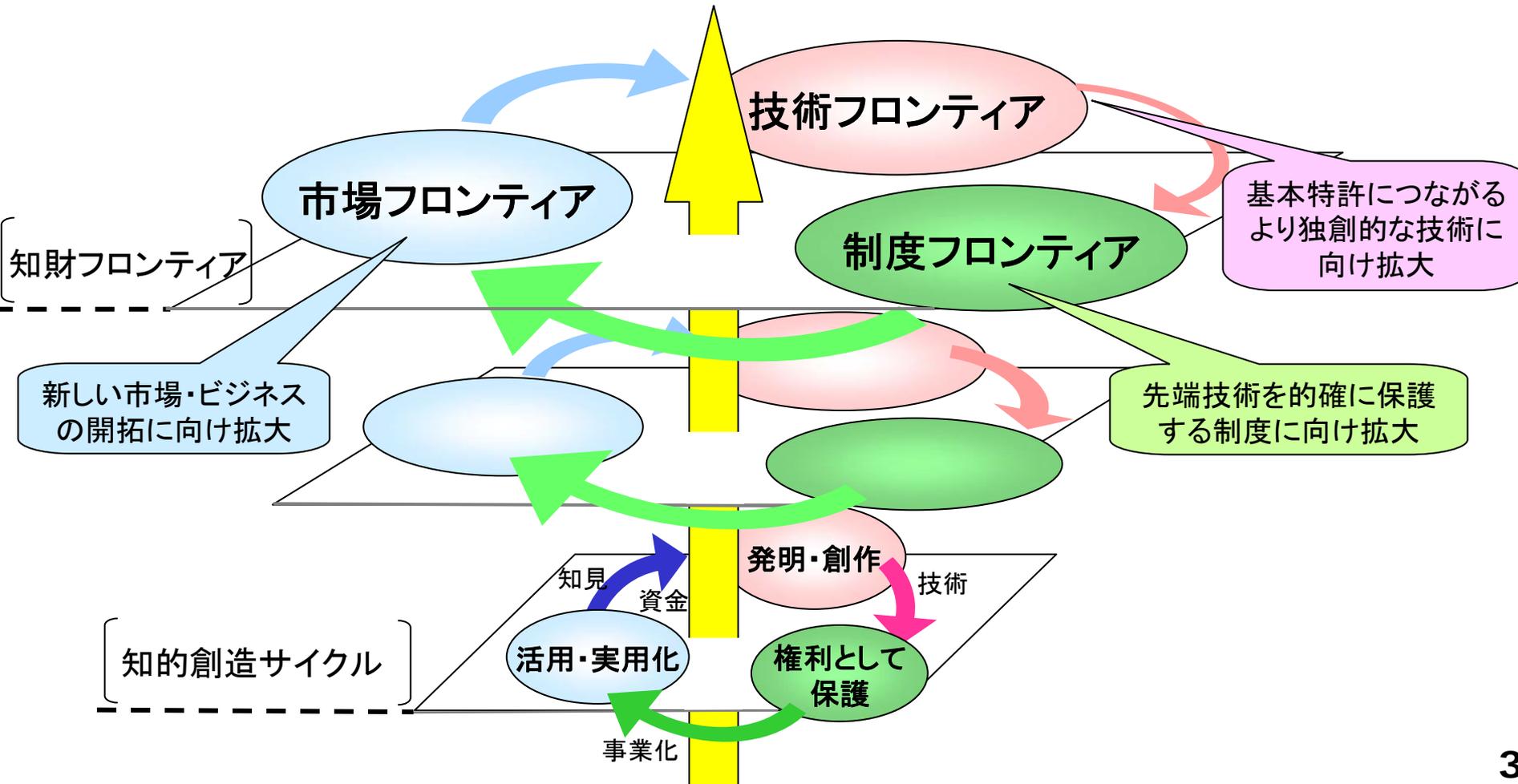
- シーズ指向
- 幅広い産業分野に応用

- 用途開発は米国に遅れる面あり

基本理念

大目標 連続的なイノベーションの創出による国際競争力の強化

基本理念 知財フロンティア（技術・制度・市場）を開拓する



基本戦略と具体的取組

基本戦略

技術フロンティアの拡大

基本特許(上流)を確保し、
幅広く(下流まで)技術を押さえる

制度フロンティアの拡大

新ビジネス開拓を促進する知財制度の整備

市場フロンティアの拡大

優れた技術の共通基盤化

中小企業による知財の積極活用

国際展開の促進

当面の具体的取組

- 競争的資金の戦略的重点化
- 研究開発の障害の除去
(実験用動植物(リサーチツール)の特許情報の開示)
- 特許権存続期間延長制度の対象見直し
(遺伝子組換え生物、DDS(ドラッグデリバリーシステム)等)
- ネットワーク社会における著作権法の在り方の検討
(検索サービスに係る問題の早期解消等)
- 国際標準獲得への取組の強化
- オープン・イノベーションへの対応の検討
- 中小企業の知財活用への支援強化
- 模倣品・海賊版拡散防止条約の早期実現
- グローバルな課題への知財による貢献
(環境技術等への積極的な技術移転)

〈配慮すべき事項〉

濫用的な権利行使(「パテント・トロール」)への対応

- 早急に論点を整理し、国民的議論を喚起
(被害が多発している米国での判例等を参考)